

学校評価アンケートの分析結果について

1. 砂川高校（通信制課程）の現状俯瞰（生徒・保護者の肯定・否定比較）

回答の1+2を肯定、3+4を否定ととらえ、別紙の⑤要約グラフとしました。

学校全体の信頼度と、生徒・保護者の認識の差を可視化します。

- **対象項目:** 問1（適性）、問3（自学自習できる）、問5（放送メディア活用）、問10・8（相談しやすさ）、問13・11（既存システムが円滑にこなせているか：←これを総合満足度と解した）
- **ポイント:** 問13の総合満足度が極めて高い（生徒97.5%）ことを「本校の基盤」と考えます。
問3の「自学自習」における保護者の高い肯定（96.9%）と生徒の自己評価（82.5%）にはギャップがあり、肯定的に読めば、保護者は生徒の自律的成長を温かく見守っています。

2. 【重要】学習の困難さの中身について（問7・問8）

今年度、最も深掘りしたかった「新設設問」の結果です。

- **対象データ:** 問7: 学習が「難しい」と答えた35.0%
問8: その「難しい内容」の内訳

A レポートの内容・量・期日	50.0%
F 学習意欲継続の困難さ	28.6%
C 質問相手が見つからない（サポートの少なさ）	14.3%
B スケジュールや計画すること	7.1%
- **説明:** 「学習が難しい」と感じる生徒は回答者の約1/3強。
その**最大のボトルネックは「レポート作成（50%）」**にあり、面接指導（スクーリング）の内容よりも「レポート作成プロセス」への支援が今後の鍵と考えられます。

3. 自由記述から見える「ICT活用の進化」

追加の生徒の意見を反映したキーワード分析です。

- **対象データ:** 自由記述「改善を望む点」「電子レポートへの要望」
- **説明:** 「答えの表示」「復習」「再回答」といったワードがあり、単に「デジタル化した」だけで満足せず、「デジタルの利便性を活かして学びを深めたい」という生徒の向上心が顕在化しています。

今回は「現状の最適化」をテーマに、「今、生徒がどこで立ち止まっているか」の分析を試みました。

【ポイント1：盤石な信頼関係】 ⑤要約グラフの通り、生徒の満足度は97%を超え、教員への相談しやすさも極めて高い数値です。特筆すべきは保護者の視線です。「子どもが独力で頑張っている」と評価する保護者が97%に達しており、本校通信制という環境が、家庭内での信頼回復や自律支援に大きく寄与していることが伺えます。

【ポイント2：レポート作成が最大の壁】 新設した設問7~9の結果、学習に困難を感じる生徒の2人に1人が「レポート作成そのもの」を課題として挙げています（上述）。内容の難しさ以上に、作成の段取りや継続にエネルギーを要している実態も見えてきました。

【ポイント3：次世代型電子レポートへの期待】 自由記述からは、電子レポートの「復習機能」や「即時フィードバック」を求める声も上がっていました。これは生徒の「もっと分かりたい」という意欲の現れです。今後は、単なる電子化を超え、生徒の自学自習を強力にバックアップするシステム改善を検討したいと考えています。

ただし、ご案内のように、東京都が業務委託契約を結ぶ電子レポートに関しては、本校だけの意志で変えられるものではなく、今後も継続的にこのような学校としての要望について献策してまいります。